

北信濃里山通信 vol.1 1

2013年4月15日発行

巻頭言 「しくみ」をつくる

会長 井田秀行

『北信濃の里山を保全活用する会』始動3年目です。昨年同時期の巻頭言で私は、「里山を熱く語れる人を増やす」という目標を掲げました（vol.6）。みなさんが日々熱く語っているかどうかはともかく（^-^），目標達成度をはかる一つの指標として会員数の推移を見ますと、みなさんのご協力の甲斐あって昨年度末56人から6名（約10%）増えました。ひとまずの目標は達成できたといえるでしょう。



さて、それで満足してはなりません。よりサポーターを増やすためにも今年度は、会の活動を楽しく、苦勞せず（←これが重要）続けるための「しくみ」づくりに力を注ぎます。「しくみ」づくりとは、現在実施している刈り払いや観察会を継続させるための方策を練ることです。必要経費もさることながら、何より大切なのは、人をつなぐこと。それには参画されたみなさんに「充実感」や「達成感」を得ていただかなくてはなりません。

そこで、具体的な取り組みとして現在、オオルリシジミの生息地に広がるカヤ（ススキ）を刈り払い、それをカヤ葺き屋根の材料として「出荷」することを検討しています。カヤが毎年刈り払われることでオオルリシジミの食草であるクララも増えます。つまり、カヤを刈って気持ちのよい汗を流し、対価としてオオルリシジミの生息地は保全され、さらに活動資金も得られるという、欲張りの計画です。その実現に向け今は試行段階にありますが、意外にもカヤ葺き材料としてのカヤの需要はあるようなので、良質のカヤが収穫できれば実現の可能性は高いと考えています。



オオルリシジミの生息地に広がるカヤ（ススキ）

引き続き里山整備作業や観察会へのみなさんのご参加をお願いする一方で、あちこちに言い触らしてもらえそうなユニークな取り組みを考え、ニュースレターやホームページ等を通じて発信します。活動に直接参加できなくとも、あるいは里山を熱く語れなくとも、私たちのこうした日々の活動に思いを馳せて頂けるだけでも十分です。今年度も何とぞご支援のほどよろしく願いいたします。

活動報告など

事務局

・戸狩地区へのオオルリシジミ放蝶に関して「オオルリシジミ研究会」の見解など

3月9日（土）、松本市「山と自然の博物館」において、信州大学、長野県（自然保護課、環境保全研究所）、東御市・安曇野市・飯山市のオオルリシジミ保護団体が集まり、オオルリシジミ研究会の例会が開催されました。各地の活動など情報交換が行われたほか、当会で計画している戸狩地区への放蝶に関して議論が行われ、生息域外保全計画が策定されました。

オオルリシジミ飯山市個体群の現状としては、生息地は1カ所で生息面積も狭く、絶滅の恐れが高い状況にあり、その回避、リスク分散のため生息域外の保全を考える必要があります。

ただし、その域外保全の実施にあたっては、その趣旨・目的を地域の方々に普及啓発しながら連携体制を構築し、良好な里山環境を維持・再生することが重要です。このことをふまえ、戸狩地区においてオオルリシジミの域外保全による放蝶をモニタリング調査や環境保全活動などを行いながら計画的に試行することとしました。

無計画な放蝶は、慈善活動のつもりでも地域の自然生態系に悪影響を及ぼす可能性も考えられます。日本鱗翅学会では、本年3月に「放蝶」に関して以下のガイドラインを設けました。

『保全のための放蝶（以下、放蝶）には、「再導入」（一度絶滅した場所に放蝶する）、「補強」（まだ生息している場所に放蝶する）、「保全的導入」（生息が確認されていない場所に放蝶する）の3タイプがあるが、いずれの場合も、次の7点の条件をすべて満たした場合には、原則として可能とする。

- ① 放蝶は原則認めないが、生息域内保全等、考えうる他の措置を尽くしたうえで、放蝶以外にその地域個体群を守るすべがない場合。
- ② 遺伝子解析等により、放蝶個体群（放蝶個体を供給する個体群）が放蝶先の個体群と同じ「保全単位」に属すとみなされる場合。
- ③ 放蝶活動が放蝶元の個体群に対して大きなインパクトを与えないことが保障される場合。
- ④ 放蝶行為とその後の活動が法令などに抵触せず、行政や地権者の理解と協力が得られる場合。
- ⑤ 放蝶による他種への悪影響が及ばないと判断される場合。
- ⑥ 既存の保全団体および事業があり、放蝶後の永続的な生息地の管理とモニタリングが担保され、その記録が公式に残せる場合。
- ⑦ 放蝶計画の立案と実施等について本学会等の専門家の助言や協力が得られる場合。

※「再導入」と「保全的導入」の双方の選択肢がある場合は、実験的試行など特別な場合を除き、原則として「再導入」を優先的に考慮するべきである。』

以上のように、今回のオオルリシジミの放蝶は特別な実験的試行と位置づけられます。

オオルリシジミといえど、本来生息していない場所へのむやみな放蝶は慎むべきであると考えますので、会員のみなさんも御理解ください。

・「平成 24 年度定期総会と北信濃デジカメ写真講座」の開催

3月16日に当会の定期総会が開催され、平成24年度事業報告と収支決算、平成25年度事業計画と収支予算、役員体制などが承認されました。本年度は、地域・他団体との連携をふまえたネットワークづくりを進めたい考えです。

また、当日はイベントとして花崎会員による「北信濃の生きもの写真談話」、写真家の栗田貞多男さんによる「生きものデジカメ撮影講座」などが行われ、参加者に北信濃の生きものの魅力と写真の撮り方などを語っていただきました。会員の方々により、北信濃の生きものたちの写真を記録に残し、その記録集などを発行できれば・・・と思います。



栗田貞多男さんによる解説

お知らせ

事務局

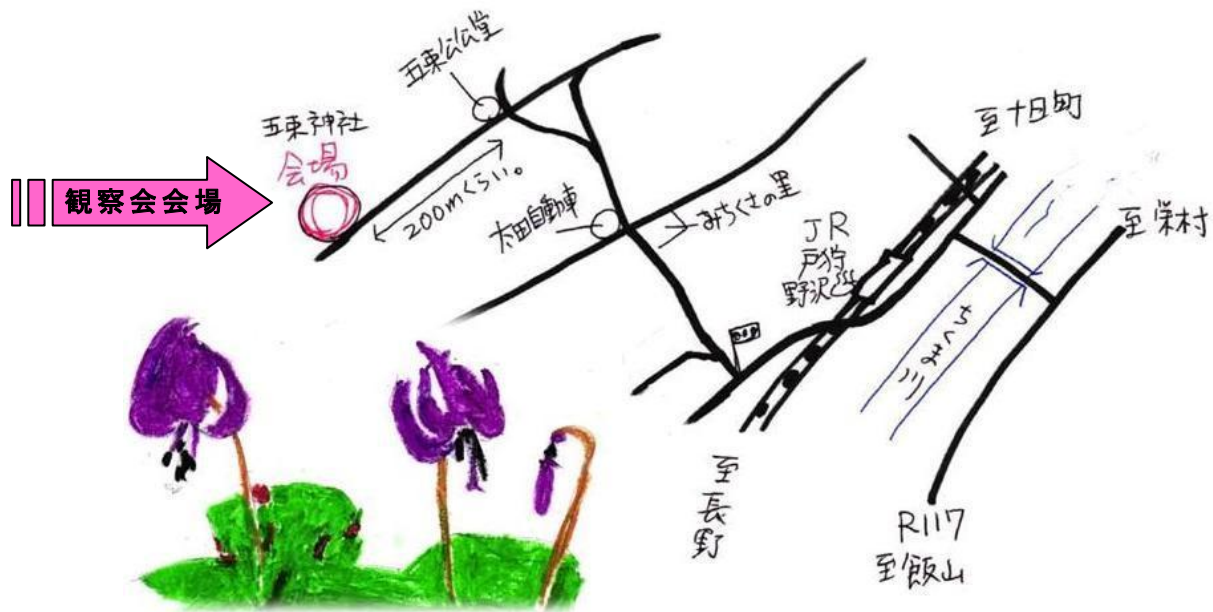
・飯山市五束活性化委員会主催 第16回『カタクリの道 観察会』

飯山では、は昨年より3週間も早くフクジュソウが咲き、春の訪れも早まっています・・・。
間際となってしまいましたが、飯山市豊田五束地区で恒例の『カタクリの道観察会』を以下のとおり開催します。キノコ汁、五束活性化委員会のみなさんで育てたお米のおにぎりなど用意しています(!)ので、ご参加ください。

【日時】4月20日(土) 午前11時～ 12時30分

【集合場所】飯山市豊田 五束神社前(健御名方富命彦神別神社)

【講師】 高橋 勸 さん(県自然観察インストラクター)
井田秀行 当会会長(信州大学教育学部准教授)



・飯山市戸狩地区への「オオルリシジミ試行的放蝶」とギフチョウ観察会

先に触れましたとおり、飯山産オオルリシジミの絶滅リスク低減対策として、試行的に戸狩地区の好適と思われる草原環境に蛹を放飼する作業を行います。また、当地に生息するギフチョウの調査、観察を併せて行いますので、関心のある方は参加ください。

【日時】5月11日(土)午前9時～ (雨天の場合、翌12日(日)に順延)

【集合場所】飯山市戸狩スキー場とんだいらグレンデ駐車場

・オオルリシジミ生息地環境整備

本年は昨年よりもオオルリシジミの発生が早まりそうで、6月はじめ頃には羽化が始まるかもしれません・・・できれば発生前に看板設置、保護区設営、草の刈り払い作業を行いたいと思います。作業に適した服装で参加ください。

【日時】5月25日(土)、6月1日(土)午前9時～(雨天の場合、翌日の5月26日、6月2日に順延)

【集合場所】飯山市公民館駐車場ですが、直接生息地に向かわれても結構です。

なお、一般向けの「オオルリシジミ親子観察会」を6月9日(日)及び6月16日(日)の午前(9:00 飯山市公民館駐車場集合)で計画したいと思いますので、予定してください。

また、7月に鍋倉山で「ブナの森観察会」、11月に戸刈スキー場で「カヤ刈りイベント」などを検討中です。

会のイベント・行事は逐次、当会ホームページに掲載しますので御覧ください。

当会ホームページ(Neake) URL <http://kitashinano-neake.com/>

・「知ろう！つなごう！飯山流自然づきあいの作法（飯山市生物多様性保全計画策定書）」が発行されました。

飯山の身近な当たり前の自然を知ってもらおうと、井田会長はじめ有識者が編集委員となり啓発冊子が作成されました。本書はA4サイズ81ページで、実践編（生物多様性保全のために市民ができること）、解説編（本冊子のねらいと実践編の詳細情報）、資料編（生物多様性保全に向けた提言）で構成されています。

写真・イラストを多用し、キャラクター（いっちゃん、やっくん、メシヤマ先生）の登場により親しみやすく、わかりやすく解説されています。

特に実践編は子ども向けに作られており、飯山市内の小学生全員（1300部）に無償配布される予定です。本書を使って、親子で飯山の里山、自然のすばらしさを熱く語りあえる家庭が増えることを期待します。

オオルリシジミの保全活動など、当会の活動が詳しく紹介されていますので、今後、生物多様性の啓発に向けて観察会や学習会の実施など、会が関与していくところも大きいと思われます。



編集後記

事務局

春を迎え、本年の雪消えは例年よりも幾分早いようで、生きものたちが動き出す季節となりましたが、総会で承認された計画の実行に向けて事務局も活動を始めています。

昨年度、損保ジャパンから助成をいただいた「SAVE JAPAN プロジェクト」ですが、本年度も継続実施することとなり、先日、窓口の長野県NPOセンターの担当の方と打ち合わせを行いました。いただいた助成で観察会などのイベントを企画しながら、団体・地域組織との連携を深め、活動を継続させるための「しくみ」づくりを考えます・・・（巻頭の井田会長の言葉）。

飯山市生物多様性保全計画策定書（上述の啓発冊子）が作成され、これを基に「地域連携活動」を検討することになり、2月27日に当会と「黒岩山保全協議会」、「いいやまブナの森倶楽部」、「信越トレイルクラブ」の代表の方々と懇談を行いました。各団体の取り組み状況や課題やについて確認、連携の方策などについて意見交換をし、今後の展開が期待されます。

また、本年度、戸狩地区にオオルリシジミの放蝶を計画していますが、地元の方々にもその希少性を理解していただきながら、保全の対価としてカヤなど草地資源の活用を協働で取り組み、地域還元できる「しくみ」づくりを構築できれば・・・というのが理想です。最初は、負担も大きいかと思いますが、地域のために身を献げる「大義」ある行動が他地域・都会の人たちの共感を呼び、「しくみ」が多面的に機能するようになると思います。会員のみならず、多様な方々と目的を共有しつつ、主体的な行動をお願いするところです。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1436-1
飯山市公民館内
TEL：0269-62-3342 FAX：0269-62-5940
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp
編集者・事務局長：福本匡志